**3月のロータリークラブの例会は、新型コロナウイルスのため全て休会とさせて頂きました。**

**冬から段々と暖かくなる春　卒業、入学それぞれの新しい旅たちの時期でもありますが、**

**今回の新型コロナウイルスのために、卒業式も行えない状況になりました。**

**開幕を迎えるプロスポーツ、高校野球、その他の学生スポーツも全て中止となりました。**

**様々なイベント、大規模のアミューズメント施設も休園となり経済面もいろんなところに影響が出始めています。ここ日南の地でも、飲食店、学校給食に関係する方々、また建築資材（中国製商品）の入荷がないため家が完成しないなど影響が出ています。ロータリークラブにおいても、PETSの延期、各クラブの例会、周年記念事業の開催中止などかなり影響があります。早く終息することを願うばかりです。**

**3月は、水と衛生月間です**

**安全な水と衛生設備の利用は、すべての人がもつべき権利。なのに、汚染水で病気になる人や命を落とす人が後を絶ちません。未来を担うはずの子どもたちは、水汲みなどの労働によって学校に通えず、つらい境遇を強いられています。私たちの活動は、井戸を掘るだけではありません。安全な水と衛生設備を提供した上で、衛生や伝染病予防に関する教育も行うことで、コミュニティ全体の生活を改善し、子どもの通学率を高めています。会員の世界的ネットワークを通じて、世界各地の人びとと協力して教員研修やカリキュラム作成を行うだけでなく、家庭と学校の水・衛生設備の改善を通じて、子ども（特に女子）への教育を改善しています。**

**学校の子供たちをもっと健康に**

**レバノンのすべての学校にきれいな水を提供したい。そんな気持ちが一つになって、宗教、文化、政治的な考え方が異なるリーダーが、違いを越えて活動しています。**

**「すべての生徒が、きれいな水を飲む権利があります。きれいな水は病気を防ぎ、健康に導き、結果的に教育にも好影響を与えるということは誰もが知っていることです。チャレンジの規模が大きければ大きいほど、その成果が人類に与える好ましい影響も大きくなります」「きれいな水の提供」に焦点を当てたこのプロジェクトですが、レバノンに長く続く宗教間対立を緩和する一助ともなっているとリーダーたちは言います。国内紛争のため、1975～1990年の間に国は分裂、12万人にも上る人びとが命を落としました。近年、レバノンは、さまざまな宗教、政党、派閥からなる連合政権が現れては消えている状況です。このプロジェクトを通じて、カトリック、マロン派、ギリシャ正教、アルメニア正教、ムスリムなど、さまざまな宗派に属する人びとと協力したことで、違った宗教的・政治的観点について理解を深めることができたと話します。「このプロジェクトは平和と相互理解を推進しています。このような試みは、この国では初めてのことだと思います」政治的・宗教的な考え方が違っていたとしても、子どもたちにきれいな水を提供することに反対する人は誰もいません」**

**隣国シリアでの紛争が激化し、子どもたちを含む多くの難民がレバノンに逃れてきたため、このプロジェクトはその理由からも大変重要な役割を果たしています。難民となった子どもたちが通う学校にロータリー会員がきれいな水を提供するということは、この地域での未来の平和に向けた活動であるとも言えるのです。プロジェクト関係者によれば、貯水タンクや浄水フィルターを設置し、継続して監視活動を行うのに、一校2,500米ドルがかかるとのこと。現在200校にきれいな水を提供していますが、目標は、3年以内に1,535校でそれを実現することです。**